

総会・安曇野の屋敷林見学会を計画

6月6日午後、チューリップ公園内中島家でカイニヨ倶楽部総会を開きました。

参加者は10名、過去の総会で最低の集りでした。いつも5月下旬の土曜日としてきたのを変えたこと、当日沢山の行事が重なったことと受け止めています。

先に講師の予定もあり、講演(別記)を聞き、総会に入りました。総会では柏樹代表幹事が「この春、中野のスタジイが伐られたことをとおし、人だけ都合良く快適だと思えば他の生き物は不要だ」という思考でよいのか。我慢とゆずりあい「お互い様」の心が消滅している。あらためて倶楽部の理念、願いを大きくかかげた声と活動が必要だ」と挨拶。21年度の活動と会計報告を天野一男事務局長が説明しました。また、22年度の活動計画として「安曇野の屋敷林見学会」「全国屋敷林フォーラム」「カイニヨ掃除」を提案しました。

意見交換に入り「年会費1,000円では会報の郵送料でなくなる」「活動の中身の検討と新会員を募ること」が話題になりました。フォーラムでは、会員は参加と同時に色々な部署での手伝いに加わることを確認しました。また、空家の問題、民家での宿泊交流を受ける問題の意見も出しました。



新藤先生のお話

平成22年度 総会資料 砺波カイニヨ倶楽部 (平成21年5月1日-22年4月31日)

平成22年6月6日開催



1) 平成21年度事業報告

5月31日 総会 勉強会(砺波の散村景観保全と活用について)
(砺波市教育委員会文化財室 清沢室長より講演を頂く)

7月4日 黒部川扇状地の屋敷林見学会 25名

10月31日 南砺市見学会 (西田宅、根井宅、和田宅、赤祖父の池) 27名

12月4日 富山県功労表彰祝賀会 25名

平成22年3月27日 河島宅掃除 16名

2) 平成21年度決算報告

□収入

会費	82,000	
寄付金	20,000	(稲垣様、小泉様)
祝賀会残金	36,341	(富山県功労表彰)
例会残金	4,240	(黒部見学と河島宅掃除)
利子	16	(県信)
雑収入	0	
繰越金	82,883	
合計	225,480	

□支出

総会費	5,000	(お茶代)
例会費	2,775	(南砺市見学)
通信費	81,560	(会報・案内の発送)
雑費	39,965	(会報コピー・封筒)
事務費	15,000	(天野1,0 金岡0,5)
合計	144,300	

□繰越金 収入-支出 225,480-144,300=81,180

3) 会計監査報告

5月28日に会計監査をしたところ、適切に処理されていた事を、ご報告致します。

監事 和田 健



4) 平成22年度 事業計画案

- ① 総会——(6月6日) ・演題——鷹栖村の御載
・講師——新藤正夫・安か川恵子(砺波市立散村地域研究所)
- ② 安曇野の屋敷林見学会(7月25日)
- ③ 全国屋敷林フォーラム(10月22・23日)
- ④ カイニヨの掃除(23年3月)

講演「鷹栖村のお藪からみる藩政末期の屋敷林」
講師：新藤正夫先生(砺波散村地域研究所所長・会員)

1. 加賀藩の林制として——留木制度で伐る時は藩に届ける仕組み

- 七木の制（留木制度）、垣根七木、畦畔七木
享保2年（1717）、松、杉、桐、櫻、槻の6種
享保5年には7種、享保11年には6種に

- 御林（御林山）
長慶19年（1614）井波村で松を指定
寛文6年（1661）砺波郡の御林は10箇所に

- 御藪
慶安4年（1651）に始まった
寛文元年（1661）に砺波郡では鷹栖、中保、伊勢など6箇所カラダケ藪が中心に。

2. 鷹栖村のお藪

- 天明2年（1782）にお藪は31箇所、総面積3,908歩
最大は250歩最少30歩であった。全て散居農家の屋敷林でこの部分の年貢は免除された。
- お藪は御竹藪とも記され唐竹を対象として指定したが、その他、杉、槻、松、桐の七木や雑木等、屋敷林全体が対象とされた
- 天保7年（1836）「砺波郡御林、御竹藪百姓持山御林材本数等書上申請」によると、鷹栖の御藪の状況は竹7,447本、樹木6,401本あった。樹木の一例をみるとスギで目廻り3尺以上、21本1尺以上850本、1尺未満、1,530本記録されている。
- 嘉永7年（1854）「砺波郡鷹栖村御竹藪地に生立候木数相調理書上申帳」には1戸、416本から62本、平均181本の記録がある。
1戸面積30～250歩
各戸別の面積、樹材数も記されている。

3. 文化、天保期の陰樹伐採状況

- 文化11年～天保12年の砺波郡野村島の陰樹伐採状況が田辺家文書で判明。田の陰になるから伐らせてほしいとした願い状を出し許可を受け伐った。
- 垣根（屋敷林）、畦畔、墓印ごとに印されている。
- この間の伐採総本数は2,967本、杉が2,830本とほとんどである。

4. 太平洋戦争時の供木状況

- 五鹿屋村第八常会昭和18年19年度屋敷林の供木状況
- 30戸から昭和18年159本、219,43石、昭和19年530本、469,85石供木している。2年間で1戸平均23本の大木が伐られた。

5. まとめ

- 江戸時代から現代まで屋敷林は色んな形で為政者の尺度で利用されてきた。

現在、全国屋敷林フォーラムは、下記の内容で準備致しております

「2010 全国屋敷林フォーラムinとなみ平野」 (案)

屋敷林に囲まれた農家が水田地帯に点在する砺波平野の美しい散村景観は、砺波の自然とそこに住む人々の叡智によって長い歴史の中で育き継承されてきた貴重な遺産です。

しかし、景観要素の一つである屋敷林は年々減少し、美しい景観が次第に失われています。

今回のフォーラムでは、景観としての屋敷林はもちろん屋敷林のさまざまな価値を再認識し、全国各地の事例をもとに屋敷林の存在と保全・付き合い方について考えてみよう。



砺波平野の散村

テーマ 屋敷林の再発見とその保全・創造

■日時 平成22年10月23日(土) 9時00分～12時30分

■会場 庄川学習センター(砺波市庄川町)

□基調講演 川村 誠 京都大学大学院農学研究科準教授

□事例報告 安曇野市・斐川町・奥州市・飯豊町・武蔵野市

□パネルディスカッション

コーディネーター	砂田龍次	散居村ミュージアム館長
パネリスト	金田章裕	人間文化研究機構機構長
	高橋光幸	富山国際大学教授
	奥野達雄	福光美術館館長
	島田誠次	有磯高等学校教諭
	新藤正夫	砺波カイニヨ倶楽部幹事



散村の屋敷林と民家

■参加費 入場無料

□主催 砺波カイニヨ倶楽部 となみ野田園空間博物館推進協議会

問合せ先—砺波カイニヨ倶楽部 天野 0763-33-6588

となみ散居村ミュージアム 徳田 0763-34-7180